



# スキルアップ研修会

## 新学習指導要領が求める小学校外国語



琉球大学教育学部 大城賢

研究室HP <http://kenoshiro.net/>



# Outline

## 新しい学習指導要領のポイント

1. **再定義**された「言語活動」
2. **目的・場面・状況等**を明確にした言語活動
3. 「**慣れ親しませる**」段階の重要性
4. **Small Talk** を正しく理解する
5. 「**受容**」と「**発信**」の区別
6. 小学校における「**読み・書き**」の指導
7. 絵本の活用



## 言語活動の再定義

言語活動を通して～

### 「外国語活動」及び「外国語」における言語活動

外国語活動や外国語科における言語活動は、記録、要約、説明、論述、話し合いといった言語活動よりは基本的なものである。学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというところではない。言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。

文部科学省「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」,2017,p.23

## 「外国語活動」及び「外国語」における言語活動

実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。つまり、英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動は、外国語活動や外国語科においては言語活動とは言い難い。一方で、英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動も言語活動とは言い難い。例えば、発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動は、言語活動ではなく、練習である。練習は、言語活動を成立させるために重要であるが、練習だけで終わることのないように留意する必要がある。

(文部科学省『外国語活動・外国語研修ガイドブック』2017, p.23)



「外国語活動・外国語」の目標の学校段階別一覧表

外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの**言語活動を通して**、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

小・外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動を通して**、コミュニケーションの基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

中・外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動を通して**、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

高・外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な**言語活動を通して**、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、  
「学びに向かう力、人間性等」



## 言語活動の再定義

言語活動を通して～

**再定義された言語活動を行うには「目的・場面・状況等」を明確にしなければならない。**

言葉は**目的・場面・状況**の中で使われてこそ意味を持つ。**目的・場面・状況**が設定されていないならば、「互いの考えや気持ちを伝え合う」活動などできる訳がない。このことは、5領域全てに当てはまる。書くことにおいても、「**目的・場面・状況**」を明確にした**言語活動を通して行う**ことが重要である。(大城, 2018)





目的や場面，状況などの重要性

文は，[目的や場面，状況など]の中で初めて意味を持つ。  
[目的や場面，状況など]がないところでは，単語や文法が  
本当の意味で分かったとは言えない。

学習指導要領で繰り返されているフレーズ

目的や場面，状況など



## Small Talk

Small Talkとは、高学年新教材で設定されている活動である。2 時間に 1 回程度、帯活動で、あるテーマのもと、**指導者のまとまった話を聞いたり**、ペアで**自分の考えや気持ちを伝え合ったり**することである。また、5 年生は**指導者の話を聞くこと**を中心に、6 年生は**ペア**で伝え合うことを中心に行う。

Small Talk を行う主な目的は、(1) **既習表現を繰り返し、使用できるようにして、その定着を図ること**、(2) **対話の続け方を指導すること**、の 2 点である。(文部科学省「外国語活動・外国語研修ガイドブック」p.84)

目的・場面・状況

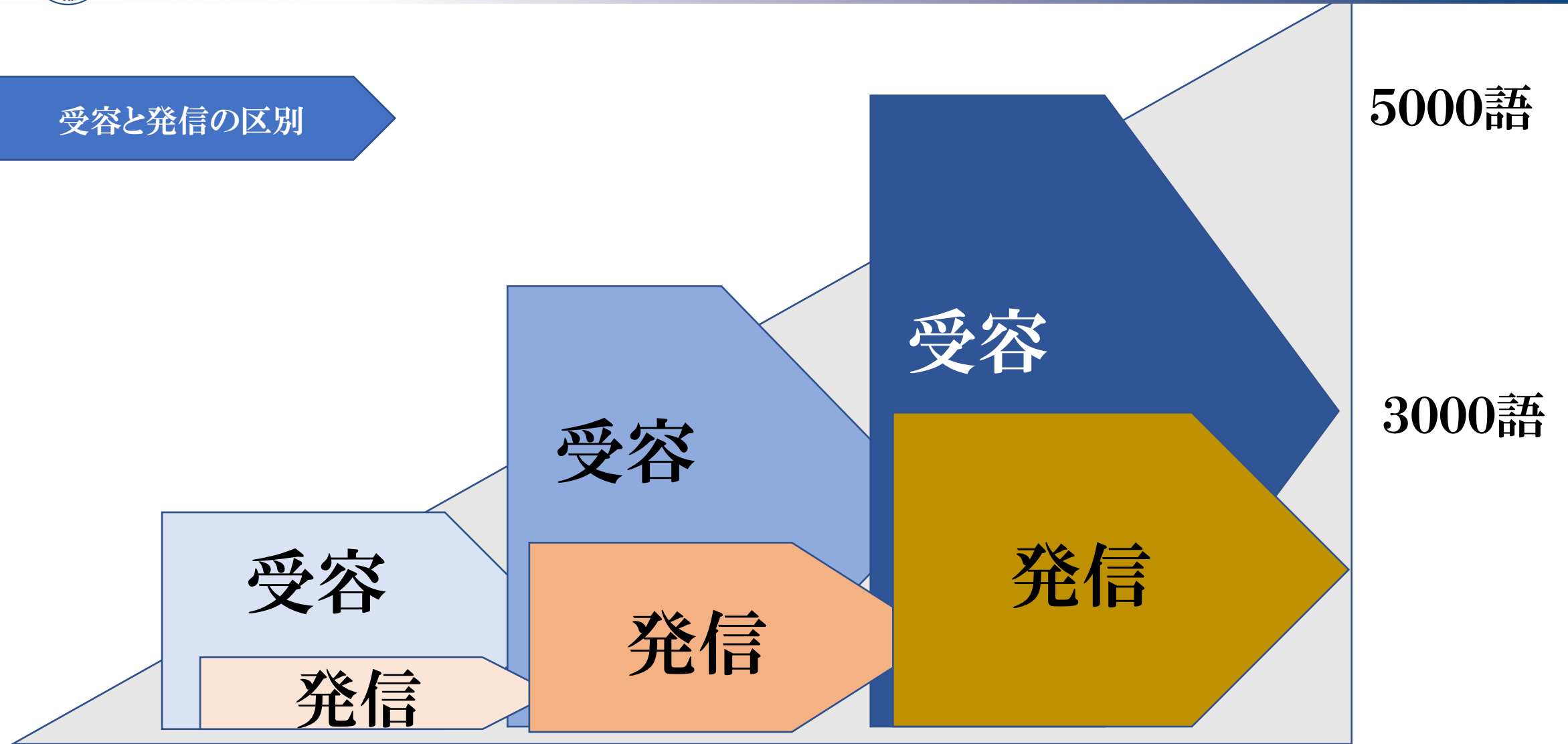
学習した英語を実際に  
使って見せる(定着)

未知語であっても場面の中で  
推測させてみる(思考力)





受容と発信の区別



小学校

中学校

高等学校

## 外国語科(書くことの目標)

(疑似的なWriting)

## (5) 書くこと

ア 大文字, 小文字を活字体で書くことができるようにする。また, 語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について, 例文を参考に, 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

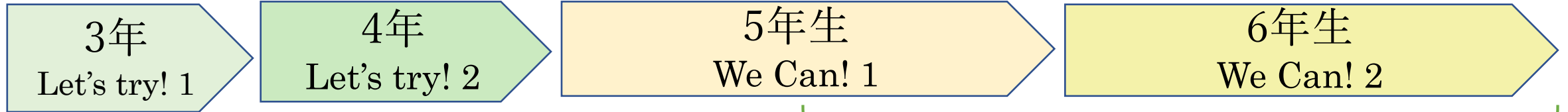
一部の語, あるいは一文を自分が表現したい内容のものに置き換えて文や文章を書くことができるようになることを示している。

例示された語句, あるいは文の中から選んだものに置き換えて, 自分に関する文や文章を書く活動が考えられる。例示された中に児童の表現したい語句, 又は文がない場合は, 指導者が個別に書きたい語句を英語で提示するなど, 児童の積極的に書こうとする気持ちに柔軟に対応する必要がある。

## 文字指導の鳥観図

アルファベットの大文字・小文字の認識を深める。文字の読み方(名称)が分かり、書くことができるようにする。

アルファベットの文字に「音」があることを学ぶ。ジングル等を通して慣れ親しむ。その後、英単語を書き写すという作業を少しずつしていく。



アルファベットの大文字・小文字に慣れ親しむ

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を少しずつ書き写したり、例文を参考に書いたりする。



近年、外国語教育のさまざまな局面で、学習者を「社会的な主体」として捉えることの重要性が指摘されています。これは外国語教室において、生徒を単に「**スキルとして外国語を身に付ける学習者**」として捉えるのではなく、「**言葉を通して他者とつながる社会的な存在**」として捉えることを意味しています。(村野井、2015)

## 小学校で特に大切にしたいこと

- 初めて外国語に触れる段階である小学校においては、母語を用いたコミュニケーションを図る際には意識されていなかった、相手の発する外国語を注意深く聞いて**何とか相手の思いを理解しようしたり**、もっている知識などを総動員して他者に外国語で**自分の思い**を何とか伝えようとしたりする体験を通して、**日本語を含む**言語でコミュニケーションを図る難しさや大切さを改めて感じることで、言語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で重要であり、言語への興味・関心を高めることにつながると考えられる。  
(「学習指導要領(外国語活動)」p.12)
- 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、<中略> **友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動**を行うこと。(p.43)

## 新しい学習指導要領のポイント

## 人との関わり

また、高学年の外国語科の目標を踏まえると、**広く言語教育として**、国語科をはじめとした学校における**全ての教育活動と積極的に結び付ける**ことが大切である。

高学年の外国語科において、日本語とは異なる英語の音声や基本的な表現を用いてコミュニケーションを図ることは、**言葉の大切さや豊かさに気付いたり**、言語に対する興味・関心を高めたり、**これを尊重する態度**を身に付けたりすることにつながるものであることから、国語科の学習にも相乗的に資するように教育内容を組み立てることが求められる。

(「学習指導要領解説(外国語)」p.125)





## 絵本を活用する意義

- ①ある程度まとまりのある英語に触れることができる。
- ②未知語・表現の意味を類推・推測する力や、大意をつかむ力を育む。
- ③異文化にふれ、異文化への興味・関心を高める。
- ④音と文字のつながりに興味・関心を高める

(樋口ほか、2010)

- ⑤豊かな感性を育むことができる。
- ⑥あたたかい人間関係をつくることができる。
- ⑥コミュニケーション活動に活用できる。
- ⑦その後の、リテラシー教育の基礎を作ることができる。

(大城、2016)

## 絵本を活用した授業の評価

(1) 絵本の選択は適切であったか。

本時の目標に適っていたか。

発達段階にあったものであったか。

絵は適切で見やすかったか。

語彙は適切であったか。

(2) 教師の読み聞かせの技術は適切だったか。

児童に分かりやすい読み方だったか。

個別の児童への配慮があったか。

(3) 発展的な活動が用意されていたか。